



愛媛大学

南予水産研究センター

South Ehime Fisheries Research Center

年 報

第14号 2021年度版

目 次

はじめに	2
1. センター組織と研究概要	3
(1) 組織の概要	3
(2) 各部門の研究概要	4
(3) 教職員一覧（2022 年度）	4
2. 研究者要覧（専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2022 年度）	7
3. 研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2021 年度）	12
4. 研究成果（2021 年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）	14
5. 学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2021 年度）	20
6. 教育活動（専任教員・2021 年度）	23
7. 地域・社会連携活動（2021 年度）	29
(1) シンポジウム，講演会，展示などの開催（主催，共催，後援等）	29
(2) 地域特別研究員との共同研究	29
(3) 地域連携教育	30
(4) 一般向け講演等	31
(5) 一般向け雑誌記事等	31
(6) その他	31
8. 新聞記事・テレビ出演等（2021 年度）	32
9. センター視察・来訪者（2021 年度）	33
愛媛大学南予水産研究センター規則	34
愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程	37
愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿	39
愛媛大学南予水産研究センター参与会要項	40
愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿	41
愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項	42
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項	43
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿	44

は じ め に

皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

このたび、2022 年度（令和 4 年度）から、私、松原孝博が新たに南予水産研究センターのセンター長を拝命いたしましたので、この機会にご挨拶させていただきます。まず、武岡英隆前センター長には長い間に渡ってたいへんご苦勞いただき、感謝の意を述べたいと思います。私は武岡前センター長のもとで副センター長を勤めさせていただいておりましたが、センター長は初めてのことであり、及ばないところも多々あるかと思いますが、皆様に種々ご教示いただきながら、尽力していきたいと考えております。

南水研は 2008 年度（平成 20 年度）の開所から、今年度で 14 年目を迎えました。私は、2013 年度（平成 25 年度）の西浦ステーションの開所時から同ステーションに勤務しており、その 2 年ほど前から愛南町と共に設計や仕様決定に携わりました。ここの特色は船越ステーションにはなかった大型の陸上飼育施設を装備する「飼育棟」を有することであり、これを機に西浦ステーションは生命科学、船越ステーションは環境科学を担当する施設と特色付けることとなりました。西浦ステーションの飼育棟は、2017 年度から 2021 年度にかけて実施した文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」において、スマの育種－完全養殖の研究に大きな力を発揮してきました。南水研は国立大学唯一、海面生簀と陸上大型飼育施設の両者を装備する研究センターとして、小型マグロ類であるスマの完全養殖研究とそれによる産業創出を愛媛県及び愛南町と共に推進してきました。その成果として、2021 年度に行われた同プログラムの終了時現地評価では、スマ養殖の研究成果に基づく産業展開、すなわちエコシステムの始動に対して高い評価を受けることができました。また、同プログラムでは基盤構築プロジェクトとして、南水研のもう一つの重要テーマである赤潮・魚病の早期検出と被害防除技術についても着実な進捗が見られています。2022 年度に入って行われた終了後の現地ヒアリングにおいても評議委員及び文部科学省担当者から激励をいただき、愛媛の地の養殖の技術力、製品を世界に向けて発信していく取り組みをさらに進めて欲しいとの言葉をいただき、南水研の今後取り組むべき目標が改めて認識されました。

2021 年度は構成員にも変化がありました。南水研開所時から長らく構成員であった若林良和教授が社会連携機構長、理事、副学長に就任され、南水研の専任教員の籍から外れたことから、それまで特定准教授として先のエコシステムでスマの品質評価法の開発と高品質化育種への導入を中心となって牽引してきた斎藤大樹氏が新たに正規准教授へと採用されました。これによって南水研の研究開発力を減衰させることなく、今後の来るべき新たな取り組みに向かう準備が整ってきたと言えます。

これまで続いてきたコロナ禍により、教育や研究に大きな変化がもたらされ、教職員の仕事にも多くの制約がかかってきました。しかしながら、そうした中であってこそ先を見据えて、今取り組むべき SDGs の理念に沿った、「環境と調和した持続的な養殖産業」を推進していくための研究・開発に地域と一丸となって全力で取り組んでいきたいと考えています。

2022 年 11 月

愛媛大学南予水産研究センター

センター長 松原 孝博

1. センター組織と研究概要

(1) 組織の概要

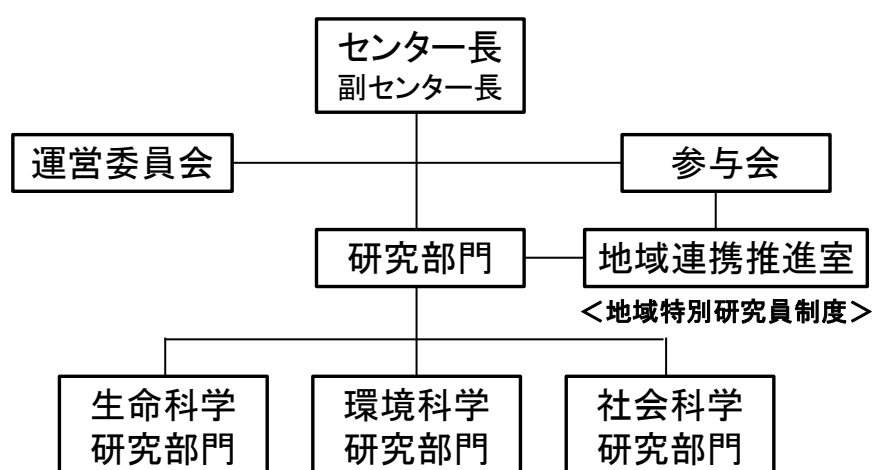
愛媛大学には、学部や研究科などにまたがる横系的な組織として 4 つの機構（教育・学生支援機構、社会連携推進機構、先端研究・学術推進機構、国際連携推進機構）があります。南予水産研究センター（以下、南水研）は、これらのうち社会連携推進機構に属する研究センターです。社会連携推進機構には現在 13 のセンターがありますが、これらは役割により産学連携推進部門と地域連携推進部門に分類されており、南水研は地域連携推進部門の中で地域産業特化型のセンターに位置づけられています。

南水研は、漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく、最先端の生命科学による高度な生産技術の開発、環境科学による養殖漁場環境の保全、社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった、「生命」、「環境」、「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため、研究部門は、

- (1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
- (2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
- (3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」

によって構成されています。

南水研の組織構成における大きな特徴は、参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は、社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく、地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で、センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています（p.40）。地域連携推進室は、これまでの地域連携・研究支援室を廃止して 2018 年度に新たに設置された組織で（p.43）、地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度（p.42）運営しています。この制度は、自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し、受け入れ教員とともに研究を進める制度で、2021 年度は 14 名の方が登録されています。



(2) 各部門の研究概要

生命科学研究部門

水産養殖は、海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し、利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには、対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し、それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では、水産養殖生物を生命科学の視点から解析し、生命科学の技術を駆使して、水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが、「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて、これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

環境科学研究部門

愛媛県南予地域に接する宇和海は、リアス式の複雑な海岸地形を持ち、水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり、魚介類の養殖に最適な環境です。さらに、サンゴを育む清浄な海は風光明媚で、足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では、このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在、赤潮や魚病による被害を抑え、養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」、地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

社会科学研究部門

社会科学研究部門は、社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより、持続可能な発展を目指して、適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら、二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で、社会構造論・生活ネットワーク論、産業文化論・地域文化論の観点から、水産業や漁村における社会構造や生活文化を探究し、その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で、経済理論（経営論・管理論）をもとに、水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し、その振興策を提案しています。

(3) 教職員一覧(2022年度)

(※ 2022 年 10 月までに退任した教職員)

センター長： 松原 孝博（2022 年 4 月から）

※ 武岡 英隆（2022 年 4 月から客員教授）

専任教員

松原 孝博	教 授	生命科学研究部門
後藤 理恵	准教授	生命科学研究部門（2022 年 9 月まで准教授）
斎藤 大樹	准教授	生命科学研究部門
高木 基裕	教 授	環境科学研究部門（2022 年 4 月から副センター長）
清水 園子	准教授	環境科学研究部門
若林 良和	教 授	社会科学研究部門
竹ノ内徳人	准教授	社会科学研究部門（2022 年 9 月まで准教授）

兼任教員

菅原 卓也	教 授	生命科学研究部門（農学研究科）
今村 健志	教 授	生命科学研究部門（医学系研究科）
高橋 学	教 授	生命科学研究部門（社会共創学部）
松枝 直人	教 授	環境科学研究部門（農学研究科）
小林 真也	教 授	環境科学研究部門（理工学研究科）
森本 昭彦	教 授	環境科学研究部門（沿岸環境科学研究センター）

特定職員(教員・研究員)

* 金尾 聡志	教 授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム（2022年4月より客員教授）
西宮 攻	助 教	生命科学研究部門
Dipak Pandey	研究員	生命科学研究部門
竹内 久登	研究員	環境科学研究部門
* 遠藤 充	研究員	生命科学研究部門（2022年4月から水産研究・教育機構）

客員教員

西永 豊光	客員教授	SEN KAI Food Service LLC
武岡 英隆	客員教授	2022年4月から
金尾 聡志	客員教授	2022年4月から
* 郡司島宏美	客員准教授	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト(2022年2月より理工学研究科)

客員研究員

山木 勝	生命科学研究部門（愛媛県立宇和島水産高等学校教諭）
山下 浩史	生命科学研究部門（愛媛県農林水産研究所水産研究センター担当係長）
深田 陽久	生命科学研究部門（高知大学農学部准教授）
伊藤 克敏	環境科学研究部門（（国研）水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所主任研究員）
藤原 謙	環境科学研究部門（ウミトロン(株)代表取締役）
阿部 覚	社会科学研究部門（(株)ミナトフーズ企画室長）
増崎 勝敏	社会科学研究部門（大阪府立港高等学校教諭）

地域特別研究員

清水 陽介	生命科学研究部門（愛南町）
田中 俊也	生命科学研究部門（(株)神明水産）
大西 光	生命科学研究部門（大西水産（有））
吉原 勇作	環境科学研究部門（愛南町）
垣本 一真	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
廣瀬 琢磨	環境科学研究部門（愛南町）
濱田 茂樹	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
山本 次郎	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）

賀屋 啓太	環境科学研究部門（愛南町）
日野出賢二郎	環境科学研究部門（公益財団法人黒潮生物研究所）
高橋 裕司	社会科学研究所部門（愛南町）
藤本 吉信	社会科学研究所部門（愛南町）
濱 哲也	社会科学研究所部門（愛南町）
猪野啓士郎	社会科学研究所部門（愛南町教育委員会）（2021 年 5 月から）

事務・技術職員

西原 良顕	チームリーダー	船越ステーション
橋岡 千寿	事務補佐員	船越ステーション
馬場 千尋	事務補佐員	船越ステーション（2022 年 9 月から）
*高橋 瑞穂	事務補佐員	船越ステーション（2022 年 7 月まで）
*中井 優希	事務補佐員	船越ステーション（2022 年 3 月まで）
日野 真成	事務補佐員	西浦ステーション
*重見 暢子	部員	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム（2022 年 3 月まで）
*明上奈緒美	部員	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト（2022 年 3 月まで）
竹田 夏美	研究補助員	船越ステーション（2022 年 4 月から）
*猪崎真由美	研究補助員	船越ステーション（2022 年 3 月まで）
近澤すおみ	研究補助員	船越ステーション（2022 年 6 月から）
大野祥司郎	技術員	西浦ステーション
*上根 真帆	研究補助員	西浦ステーション（2021 年 11 月まで）
*安部 杏子	研究補助員	西浦ステーション（2022 年 3 月まで）
清水 優子	研究補助員	西浦ステーション

2. 研究者要覧(専任・兼任教員, 特定教員・研究員, 客員教員, 2022年度)

専任教員

松原 孝博 Matsubara Takahiro

職 名: センター長 教授 (生命科学研究部門)

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース (兼任)

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース (兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻 (併任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本比較生理生化学会

専門分野: 1. 水産増養殖学 2. 魚類繁殖生理学

研究課題: 1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究 4. 魚類の受精における卵-精子相互作用に関する研究

後藤 理恵 Goto Rie

職 名: 教授 (生命科学研究部門)

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース (兼任)

愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース (兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻 (併任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野: 魚類繁殖生理学

研究課題: 1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類性統御技術開発 5. 魚類借腹生産技術開発

斎藤 大樹 Saito Taiju

職 名: 准教授 (生命科学研究部門)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野: 1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

研究課題: 1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類発生工学技術開発

高木 基裕 Takagi Motohiro

職 名: 教授 (環境科学研究部門)

農学部 生物環境学科 環境保全学コース (兼任)

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース (兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻 (兼任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本魚類学会 4. 日本生物地理学会
5. 応用生態工学会

専門分野: 1. 水族保全学 2. 水産育種学

研究課題: 1. 野生魚介類, 放流魚介類の保全・生態研究 2. 養殖魚介類の遺伝・育種研究

清水 園子 Shimuzu Sonoko

職 名：准教授（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（併任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会

専門分野：1. 養殖環境学 2. 魚病学 3. 魚類生理学

研究課題：1. ICTを活用した赤潮・魚病対策に関する研究 2. 魚病発生メカニズムに関する研究
3. 赤潮発生メカニズムに関する研究

若林 良和 Wakabayashi Yoshikazu

職 名：教授（社会科学研究部門）

理事・副学長（社会連携・人事マネジメント担当）

社会連携推進機構 機構長

社会共創学部産業イノベーション学科海洋生産科学コース（兼任）

農学部食料生産学科食料生産経営学コース（兼任）

大学院農学研究科食料生産学専攻水圏生産学コース（兼任）

大学院連合農学研究科生物資源生産学専攻食料経済学分野（兼任）

大学院人文社会科学研究科産業システム創成専攻環境・資源マネジメントコース
（兼任）

所属学会：1. 日本カツオ学会 2. 地域漁業学会 3. 漁業経済学会 4. 日本食育学会 5. 日本社会
学会 6. 日本文化人類学会 7. 日本民俗学会

専門分野：1. 水産社会学 2. カツオ産業文化論 3. ぎょしょく教育論（食育実践論） 4. 黒潮文
化論 5. 社会調査論

研究課題：1. 水産地域の社会構造（漁村社会の構造的アプローチ）に関する研究
2. 水産地域の生活文化（漁村生活の文化的アプローチ）に関する研究
3. 水産コミュニティを基盤とした産業振興と地域活性化に関する研究
4. 地域性と歴史性からみたカツオの産業と文化に関する研究
5. ぎょしょく教育（総合的水産版食育）・食育のコンテンツとメソッドに関する研究
6. 地域誌（史）の視点を重視した漁撈文化と漁場利用に関する研究
7. 水産業と漁村の多面的機能をもとにした地域水産振興システムの構築に関する研究
8. 定性分析に向けた質的調査としてのフィールドワークの技法と実践に関する研究

竹ノ内 徳人 Takenouchi Naruhito

職 名：教授（社会科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（併任）

所属学会：1. 漁業経済学会 2. 地域漁業学会 3. 日本沿岸域学会 4. 日本協同組合学会

専門分野：1. 水産経済・経営学 2. 水産物マーケティング論 3. 水産物ブランド論

研究課題：1. 養殖業経営に関する研究 2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究 3. 水産物マ
ーケティングに関する研究 4. 水産物のブランド化に関する研究

兼任教員

菅原 卓也 Sugahara Takuya

職 名：教授（農学研究科生命機能学専攻）

医農融合公衆衛生学環（兼任）

学長特別補佐

先端研究・学術推進機構 副機構長（学術企画室 室長）

農学研究科附属食品健康科学研究センター センター長

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門

学術支援センター センター長（兼任）

学術支援センター 遺伝子解析部門 部門長（併任）

地域協働センター西条（兼任）

地域協働センター中予（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

植物工場研究センター（兼任）

所属学会：1. 日本農芸化学会 2. 日本栄養・食糧学会 3. 日本食品科学工学会 4. 日本食品免疫学会 5. 日本アレルギー学会 6. 日本動物細胞工学会 7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF)

専門分野：1. 食品機能学 2. 動物細胞工学

研究課題：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究 2. 柑橘成分の抗アレルギー効果に関する研究 4. アカモクの保健機能に関する研究
研究 3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究 4. 機能性食品開発

今村 健志 Imamura Takeshi

職 名：教授（医学研究科分子病態学講座）

副学長（広報担当）

広報室 室長

地域協働センター中予 センター長

先端医療創生センター センター長

プロテオサイエンスセンター（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 日本癌学会（評議員） 2. 日本がん分子標的治療学会（理事，学術集会会長） 3. 日本骨代謝学会（評議員，あり方委員会委員） 4. 日本整形外科学会（専門医） 5. 日本分子生物学会 6. 日本生化学会 7. 米国骨代謝学会（ASBMR）

専門分野：1. バイオイメージング 2. TGF- β のシグナル伝達 3. がんと骨の生物学

研究課題：1. 生体深部観察のための2光子励起顕微鏡の開発 2. 広範囲生体高速イメージングのための光シート顕微鏡の開発 3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発
4. TGF- β ファミリーのシグナル伝達の解析 5. がん転移の分子メカニズムの解析
6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

高橋 学 Takahashi Manabu

職 名：教授（社会共創学部産業イノベーション学科）

理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 日本機械学会 2. 日本材料学会 3. 日本複合材料学会 4. 中国・四国工学教育協会 5. 日本塑性加工学会

専門分野：1. 材料力学 2. 機械材料・材料加工

研究課題：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発 2. デジタル技術を用いた水産業への応用

松枝 直人 Matsue Naoto

職 名：教授（農学研究科生物環境学専攻）

南予水産研究センター環境科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 土壌肥料学会 2. 環境除染学会

専門分野：1. 環境保全学 2. 水圏環境学

研究課題：1. 土壌鉱物やゼオライトを利用した環境汚染物質の吸着除去 2. 途上国貧困層の飲料水の簡易浄化 3. 養魚場での赤潮被害を抑制する資材の開発

小林 真也 Kobayashi Shinya

職 名：教授（理工学研究科情報システム工学専攻）

南予水産研究センター環境科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4. 日本工学教育協会 5. 日本感性工学会 6. 日本水産学会 7. IEEE 8. ACM

専門分野：1. 情報工学 2. 通信工学

研究課題：1. ICT（情報通信技術）の社会応用 2. 分散処理システムに関する研究

森本 昭彦 Morimoto Akihiko

職 名：教授（沿岸環境科学研究センター）

南予水産研究センター環境科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 3. 衛星海洋学

研究課題：1. 東シナ海・日本海の物質循環 2. 豊後水道の底入り潮 3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

特定教員

西宮 攻 Nishimiya Osamu

職 名：助教（生命科学研究部門）

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：1. 水族繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究

研究員

Pandey Dipak

職 名：特定研究員（生命科学研究部門）

所属学会：1. 日本水産学会 2. American Fisheries Society

専門分野：1. 魚類繁殖生理学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚類の内分泌に関する研究 2. スマの種苗生産に関する研究 3. PIT-タグによる魚の初期幼生のラベリング 4. TALEN と CRISPR を用いた魚のゲノム編集

竹内 久登 Takeuchi Hisato

職 名：特定研究員（環境科学研究部門）

所属学会：1. 日本魚病学会 2. 日本水産学会

専門分野：1. 魚病学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚病病原体の検出手法に関する研究 2. 魚病細菌の性状に関する研究 3. 赤潮の早期発見技術開発研究

客員教員

西永 豊光 Nishinaga Toyomitsu

職 名：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）

専門分野：1. 養殖魚の海外市場調査 2. 水産物のロジスティクス及び販売促進

武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 水産海洋学会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学

研究課題：1. 沿岸海域の流動と物質輸送 2. 豊後水道の急潮と底入り潮 3. 養殖場の物質循環と環境保全

金尾 聡志 Kanao Satoshi

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 地域漁業学会

専門分野：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産） 3. 水産経済・経営学

研究課題：1. スマ養殖経営収支モデルの作成 2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究 3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

3. 研究プロジェクト(専任教員, 特定教員・研究員, 2021年度)

センター共通

1. 「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」―水産養殖王国愛媛発, 「スマ」をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革, 文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」(2017～2021年度), 125,031千円(2021年度交付決定額)

松原孝博

【受託研究】

1. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 研究統括. 令和元-3年度. 7,019千円(分担).
2. 愛媛県令和元年度伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 親魚管理および出荷技術開発. 1,000千円(代表).

後藤理恵

【科研費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和3～6年度, 研究費400千円(分担).

【受託研究】

1. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発, 研究統括. 令和元～3年度. 7,019千円(代表).

斎藤大樹

【科研費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和3～6年度, 研究費4,700千円(代表).

【受託研究】

1. 愛南町 愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発. 令和3年度, 1540千円(代表)
2. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 研究統括. 令和元-3年度. (分担)

高木基裕

【科研費】

1. 基盤研究 C: 絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究. 1,100千円(代表)
2. 基盤研究 C: 全国主要漁場における養殖マダイ逸出の分子遺伝学的調査. 100千円(分担)

【受託研究】

1. イノベーション創出強化研究推進事業 応用研究ステージ クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発. 農林水産省, 3,900千円(分担)

清水園子

【科研費等】

1. (分担) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 令和 2 年～ 3 年度「遊魚水中三次元位置測定装置で得られる遊泳ベクトルに基づく自動魚病感染検出の実用化」530 千円

【共同研究】

1. 愛南町・愛南漁協・久良漁協「愛南町海域における赤潮・魚病早期検知および発生予測システムの開発」
2. 愛媛大学理工学研究科・愛媛大学社会連携推進機構、愛媛県水産研究センター「双方向通信を用いた赤潮・魚病対策のための『水産情報コミュニケーションシステム』の開発」
3. 愛媛県「養殖魚の感染性疾患予防システム構築のための基盤研究」
4. 愛媛大学農学部環境産業応用化学研究室、社会連携推進機構紙産業イノベーションセンター「新規赤潮防除剤の研究開発」

【受託研究】

1. (代表) 愛南町受託研究、令和 3 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」、2,350 千円
2. (分担) 令和 3 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮、貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」、760 千円

【民間助成金】

1. (代表) 一般社団法人ヤンマー資源循環支援機構助成金 令和 2 年～ 3 年度「養殖魚の血液を用いた低侵襲性魚病早期発見マーカーの開発」1,100 千円

若林良和

【科 研 費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究 ―「ぎょしょく」の体系化とツール開発―、令和元年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C)・(一般)、780 千円 (2018 ～ 2022 年度：総額 4,160 千円)、(代表)

【受託研究】

1. 愛南町ぎょしょく教育普及推進ツール作成事業、愛南町、総額 2,860 千円 (2021 年度) (代表)

竹ノ内徳人

【共同研究】

1. スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発のうち「課題 2-(3) 高精度有害物質測定及び安全性検証、農水省、780 千円 (分担)

【受託研究】

1. 令和 3 年度未来型農林水産研究プロジェクト推進事業のうち市場調査、愛媛県、780 千円

竹内久登

【科研費】

1. 若手研究：環境水を用いた非侵襲的な魚病検査手法の確立、令和 3-5 年度、2,340 千円 (代表)

【民間研究助成】

1. 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 2021 年度国内研究助成：環境 RNA の水生生物感染症検査への適用、1,000 千円 (代表)

4. 研究成果(2021年度)

(兼任教員は水産関係の成果のみ記載)

生命科学研究部門

【学協会誌】

1. Dipak Pandey, Takahiro Matsubara, Taiju Saito, Yukinori Kazeto, Koichiro Gen, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Miyuki Mekuchi, Rie Goto. TALEN-Mediated Gene Editing of *slc24a5* (Solute Carrier Family 24, Member 5) in Kawakawa, *Euthynnus affinis*. *J. Mar. Sci. Eng.*, 9, 1378 (2021).
2. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Kazutoshi Yoshitake, Daiki Saka, Toshinao Ineno, Shuichi Asakawa, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Chromosome-Scale Genome Assembly and Transcriptome Assembly of Kawakawa *Euthynnus affinis*; A Tuna-Like Species. *Frontiers in Genetics* 12: 739781 (2021).
3. Takao Hayashida, Kentaro Higuchi, Hiroshi Hashimoto, Yukinori Kazeto, Takeshi Eba, Sota Yoshikawa, Rie Goto, Kogen Okita, Toshinori Takashi, Keita Ishii, Takashi Yamashita, Kazunori Kumon, Koichiro Gen. Gonadal sex differentiation and early ovarian/testicular development in cultured Pacific bluefin tuna, *Thunnus orientalis* (Temminck et Schlegel). *Theriogenology*, 173: 56-639 (2021).
4. Mujahid Ali Shaha, Effrosyni Fatira, Viktoriia Iegorova, Xuan Xie, David Gela, Marek Rodina, Roman Franek, Martin Psenicka, Taiju Saito. Blastomeres derived from the vegetal pole provide extra-embryonic nutrition to sturgeon (*Acipenser*) embryos: Transition from holoblastic to meroblastic cleavage. *Aquaculture* 551:737899 (2021).
5. Amin Golpour, Coralie Broquard, Sylvain Milla, Hadiseh Dadras, Abdul Rasheed Baloch, Taiju Saito, Martin Pšenička. Determination of annual reproductive cycle in male sterlet, *Acipenser ruthenus* using histology and ultrasound imaging. *Fish Physiol Biochem* 47:703–711 (2021).
6. Mujahid Ali Shah, Taiju Saito, Radek Šindelka, Viktoriia Iegorova, Marek Rodina, Abdul Rasheed Baloch, Roman Franěk, Tomáš Tichopád, Martin Pšenička. Novel technique for definite blastomere inhibition and distribution of maternal RNA in sterlet *Acipenser ruthenus* embryo. *Fisheries Science* 87:71-83 (2021).
7. Nagata J., Wada S., Nishimiya O., Wu M., Mushirobira Y., Yamaguchi Y., Yokono T., Kawasaki T., Matsubara T., Todo T., Hara A., Hiramatsu N. Changes in the hepatic expression of three vitellogenin subtype genes during ovarian development in female white-edged rockfish (*Sebastes taczanowskii*). *Zool. Sci.* 38 (5). 10.2108/zs210004 2021 Aug 18
8. Nagata J., Mushirobira Y., Nishimiya O., Yamaguchi Y., Fujita T., Hiramatsu N., Hara A., Todo T. Hepatic estrogen-responsive genes relating to oogenesis in cutthroat trout (*Oncorhynchus clarki*): The transcriptional induction in primary cultured hepatocytes and the in vitro promoter transactivation in responses to estradiol-17β. *Gen. Comp. Endocrinol.* 310, 113812. 10.1016/j.ygcen.2021.113812 2021 Sep 1
9. Yamaguchi Y., Nagata J., Nishimiya O., Kawasaki T., Hiramatsu N., Todo T. Molecular characterization of *fshb* and *lhb* subunits and their expression profiles in captive white-edged rockfish, *Sebastes taczanowskii*. *Comp. Biochem. Physiol. A Mol. Integr. Physiol.* 111055. 10.1016/j.cbpa.2021.111055 2021

Nov 6

10. Yuhi, T., Nishimiya, O., Ohno, K., Takita, A., Inoguchi, T., Ura, K., Takagi, Y. Cloning of cDNA encoding a newly recognized apolipoprotein-like protein and its expression in the northern sea urchin *Mesocentrotus nudus*. *Fish. Sci.* 1-15. 10.1007/s12562-022-01584-3 2022 Feb 7

【報告書など】

1. 文科省 平成 29 年度地域イノベーションエコシステム形成プログラム.「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」, 事業化プロジェクト中心研究者.担当:コア技術 1~3.令和 3 年度報告書. 2022 年 3 月.
2. 農林水産省 令和元年度 イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発.令和元年度報告書. 2022 年 3 月.

環境科学研究部門

【学協会誌】

1. 氏部崇之・山田裕貴・川田正明・高木基裕. 香川県まんのう公園で採集されたオヤニラミの由来. 香川生物 48, 7-13 2021 年 6 月
2. Eitaro Sawayama, Yoshihiro Handa, Koichiro Nakano, Daiki Noguchi, Motohiro Takagi, Yosuke Akiba, Shuwa Sanada, Goro Yoshizaki, Hayato Usui, Kenta Kawamoto, Miwa Suzuki and Kiyoshi Asahina: Identification of the causative gene of a transparent phenotype of juvenile red sea bream *Pagrus major*. *Heredity* 127, 167-175 2021 年 7 月
3. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Kazutoshi Yoshitake, Daiki Saka, Toshinao Ineno, Shuichi Asakawa, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara: Chromosome-scale genome assembly of kawakawa *Euthynnus affinis*; a tuna-like species. *Frontiers in Genetics* 12, Article 739781 2021 年 9 月
4. 山田裕貴・谷口順彦・大美博昭・木村祐貴・高木基裕. 淀川水系における両側回遊型および陸封型アユの分布. 水産学会誌 87, 617-630 2021 年 11 月
5. Hisato Takeuchi, Motoyuki Hiratsuka, Kazutomo Hori, Hiroki Oinuma, Yoshiyuki Umino, Daiki Nakano, Mayu Iwadare, Ryuji Tomono, Toshihiro Imai, Hirohito Mashiko, Aki Namba, Tomohiro Takase, Sonoko Shimizu, Toshihiro Nakai, Nobuhiro Mano. Environmental factors affecting *Edwardsiella ictaluri* - induced mortality of riverine ayu, *Plecoglossus altivelis* (Temminck & Schlegel). *Journal of Fish Diseases* 44 (8) 1065-1074, 2021.
6. Aki Namba, Kai Minakami, Taro Takee, Kaori Shiibashi, Miyu Sugino, Shuta Yasuda, Hisato Takeuchi, Takanori Ishikawa, Toshimitsu Matsubara, Hajime Arai, Teruyuki Nakanishi, Nobuhiro Mano: Temporal Change in Genetical Lineages of Infectious Hematopoietic Necrosis Virus (IHNV) in the North Kanto Region of Japan from 1981 to 2015, *Fish Pathology*, 56 (2), 35-42 (2021).
7. 鬼塚 剛, 鈴川 健二, 吉江 直樹, 平井 真紀子, 竹中 彰一, 吉原 勇作, 大西 秀次郎, 清水 園子, 竹内 久登, 太田 耕平, 外丸 裕司, 坂本 節子, 阿部 和雄, 山口 聖, 紫加田 知幸, 山口 一岩, 武岡 英隆. 宇和島湾およびその周辺海域における有害渦鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* の出現特性: 赤潮発生年と非発生年の比較. 日本水産学会誌. 87 巻 p144-159. 2021 年 3 月

【その他の雑誌】

1. 小長谷圭志, 寺田淑乃, 谷涼太, 白石悠介, 中山未奈美, 高橋学, 八木秀次, 柴田論, 穆盛林, 清水園子, 山本智規. 流路を移動する植物プランクトンの深層学習による自動計数. 愛媛大学社会共創学部紀要 8(1) 35-39, 2022

【報告書など】

1. 基盤研究 C：絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究. 令和 3 年度報告書
2. 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業 応用研究ステージ クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発. 令和 3 年度報告書
3. 高木基裕・後藤卓哉・菅谷琢磨・浜野かおる. 飼育下におけるクルマエビ交配の最新知見. 月刊養殖ビジネス 3 月号, 12-16, 2022 年 3 月
4. 清水園子, 愛南町受託研究 令和 3 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」報告書, 2022 年 3 月
5. 清水園子, 令和 3 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩, 赤潮, 貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」. 報告書 2022 年 3 月

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 小柳雅・村岡和・高木基裕・澤山英太郎. 瀬戸内しまなみ地域に生息するメダカの遺伝的評価と管理単位の特異性. 2021 年度日本魚類学会年会, ウェブ大会, 9 月, 講演要旨集: 80. (2021)
2. 中村一喜・竹内久登・清水園子. 宇和海養殖場における赤潮殺藻細菌の探索と殺藻機序の検討. 令和 3 年度日本水産学会春季大会 (オンライン). 2021 年 3 月
3. 竹内久登・川上秀昌・山中裕樹・清水園子. アユおよびマダイのエドワジエラ症原因細菌の水産動物動態に関する研究. 令和 3 年度日本魚病学会春季大会 (オンライン) 2021 年 3 月
4. 清水園子. 有害プランクトンの遺伝子情報を利用した赤潮モニタリングシステム. 日本水産学会九州支部例会シンポジウム (オンライン) 2021 年 9 月
5. 清水園子, 愛媛県漁業協同組合「赤潮研修会」報告. 愛媛県漁協漁業研修センター, 宇和島市, 2021 年 6 月 22 日

社会科学部

【著 書】

1. 若林良和・猪野啓士郎:「ぎょしょく教育」による食育共創の方向性 ―地域水産を素材とした学校教育での実践を通して―. 若林良和編 食育共創論 ―地域密着と世代重視の実践から食の未来を拓く―. 筑波書房: 16 – 31 (2021.10)
2. 若林良和: はじめに, おわりに. 若林良和編 食育共創論 ―地域密着と世代重視の実践から食の未来を拓く―. 筑波書房: 3 – 9, 252 – 258 (2021.10)

【その他の雑誌】

1. 若林良和・林勇作: 高知県中土佐町におけるカツオの産業と文化 ―「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ (5) ―. 愛媛大学社会共創学部紀要 5(2): 1 – 19 (2021.09)
2. 若林良和: 鹿児島県奄美大島南部におけるカツオの産業と文化 ―「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ (6) ―. 愛媛大学社会共創学部紀要 6(1): 41 – 51 (2022.03)
3. 若林良和: 宮古・池間島のカツオ産業文化誌 (4) ― 2 つのぎょしょく「魚職」・「魚師」による検討 ―. 宮古島市総合博物館紀要 26: 81-92 (2022.03)
4. 仲道雅輝・井口梓・桐野律子・富永真奈美・徳田明仁・若林良和*: 大学広報における学生による情報発信の成果と課題 ―「コロナ禍」の中で学生向けプレスリリース研修会を実施して―. 大学教育実践ジャーナル 20: 91 – 98 (2021.06)
5. 若林良和: 地域から信頼され愛される愛媛大学を目指して ―地域・社会とのインターフェース機能を強化し, 社会連携を実質化―. 月刊愛媛ジャーナル 35 (2)・No.410: 56 – 57 (2021.07)
6. 若林良和: コラム第 94 回 社会・地域と大学のインターフェースを果たして, 新たな共創を

Vol. 1 ～産学連携と地域連携の更なる実質化を目指して～. 松山商工会議所所報 No.750 : 14 (2021.05)

7. 若林良和 : コラム第 95 回 社会・地域と大学のインターフェースを果たして, 新たな共創を
Vol.2 ～地域水産物の価値創生による消費拡大と担い手育成～. 松山商工会議所所報 No.751 : 14. (2021.06)

【報告書など】

1. 若林良和 : 久万高原キャンパスと森林・林業リカレント教育のさらなる発展を祈念して. 愛媛大学久万高原キャンパス設立 10 周年記念事業実行委員会編 愛媛大学農学部「森の国」森林・林業リカレント教育 10 周年 久万高原キャンパス設立 10 周年記念誌. 愛媛大学大学院農学研究科・森林環境管理学サブコース : 11 (2021.10)
2. 若林良和・社会共創学部学生 : さかるた (愛南町ぎょしょく教育普及事業・カルタ型カードゲーム, 受託研究 (令和 3 年度愛南町ぎょしょく教育普及推進ツール作成事業) 成果物. 愛南町×愛媛大学社会共創学部 (2022.03)
3. 若林良和・社会共創学部学生 : シャラケット! (愛南町ぎょしょく教育普及事業・対戦型カードゲーム, 受託研究 (令和 3 年度愛南町ぎょしょく教育普及推進ツール作成事業) 成果物. 愛南町×愛媛大学社会共創学部 (2022.03)
4. 竹ノ内徳人 : 農林水産省令和 3 年度イノベーション創出強化研究推進事業応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 令和 3 年度報告書. 2022 年 3 月.
5. 竹ノ内徳人 : 令和 3 年度未来型農林水産研究プロジェクト推進事業のうち市場調査に関する報告書, 令和 3 年度報告書, 2022 年 3 月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 若林良和 : 日本カツオ学会 10 年の回顧と展望. 令和 3 年度カツオフォーラム in 高知「日本カツオ学会 10 年の足跡と未来」, 高知大学 (リモート), 2022 年 1 月 28 日
2. 若林良和 : 情報リテラシー入門 文章表現力・情報収集力の向上. 令和 3 年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルプログラム (公益財団法人愛媛県看護協会), 愛媛看護会館 (松山市), 2021 年 5 月 15 日.
3. 若林良和 : 愛媛大学のビジョン・戦略・取組について. 令和 3 年度愛媛大学地域創生イノベーション育成プログラム (南予), 愛媛大学 (リモート), 2021 年 9 月 11 日.
4. 若林良和 : 地域の『知の拠点』による地方創生への貢献 ～愛媛大学社会連携推進機構の取組から～. 第 42 回国立大学法人等研究協力部課長会議, 愛媛大学 (リモート), 2021 年 10 月 21 日
5. 若林良和 : 愛媛大学地域協働センター西条「西条スマート農業実証コンソーシアム」シンポジウム 閉会挨拶. 愛媛大学地域協働センター西条 (リモート), 2021 年 5 月 13 日
6. 若林良和 : 愛媛大学工学部附属環境・エネルギー工学センターキックオフシンポジウム 閉会挨拶. 愛媛大学南加記念ホール&リモート, 2021 年 8 月 31 日
7. 若林良和 : 愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センターシンポジウム 2021 閉会挨拶. 愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター (リモート), 2021 年 9 月 13 日
8. 若林良和 : 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター公開講演会・研究集会 閉会挨拶. 愛媛大学南加記念ホール&リモート, 2021 年 10 月 30 日
9. 若林良和 : 愛媛大学地域共創研究センター 2021 年度シンポジウム「新型コロナウイルスの発生が社会に与えた影響と今後の展開」 閉会挨拶. 愛媛大学地域共創研究センター (リモート), 2021 年 11 月 15 日

10. 若林良和：愛媛大学社会共創フォーラム 2021 開会挨拶．愛媛大学社会共創学部（リモート），2021 年 11 月 24 日
11. 若林良和：愛媛大学社会連携推進機構協力会特別講演会 閉会挨拶．愛媛大学南加記念ホール&リモート，2021 年 12 月 9 日
12. 若林良和：愛媛大学農学部・大学院農学研究科×中国四国農政局 第 1 回愛媛の食農の未来とイノベーションシンポジウム 2021 閉会挨拶．愛媛大学農学部・大学院農学研究科（リモート），2021 年 12 月 18 日
13. 若林良和：愛媛大学文系研究センター合同シンポジウム ～三輪田米山生誕二百年記念 米山日記とその時代～ 開会挨拶．愛媛大学南加記念ホール&リモート，2021 年 12 月 19 日
14. 若林良和：文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログラム「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」成果報告会（第 12 回愛南町水産フォーラム） 閉会挨拶．愛媛大学南予水産研究センター（リモート），2022 年 2 月 5 日
15. 若林良和：愛媛大学情報説明会「全世代対応型の『地域の拠点』へ ～地域連携・産学連携の実績とビジョン 閉会挨拶．愛媛大学広報課（リモート），2021 年 2 月 22 日
16. 若林良和：カツオ学会が 10 年の歩み総括「今後は国際的活動」 遠隔でフォーラム．高知新聞，2022 年 1 月 29 日．
17. 若林良和：研究者・学芸員 20 人が論考 市博物館紀要第 26 号発刊．宮古毎日新聞，2021 年 3 月 31 日．
18. 竹ノ内徳人．水産物の消費動向とマーケティング．令和 3 年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座．愛媛県（Web オンライン）．2021 年 5 月 22 日．
19. 竹ノ内徳人．漁業・養殖・陸上養殖の現状・課題・展望．令和 3 年度情報機構セミナー．東京都（Web オンライン）．2021 年 5 月 31 日．
20. 竹ノ内徳人・金尾聡志・西永豊光・西崎虹登．スマのトレーサビリティにおける安全性検証ー安全性に関する情報提供技術ー．令和 3 年度「スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発」検討会．愛媛県愛南町（南予水産研究センター西浦ステーション）．2021 年 6 月 14 日．
21. 竹ノ内徳人．水産物のフードシステムと食育．令和 3 年度松山市食育推進研修会．愛媛県松山市．2021 年 7 月 26 日．
22. 竹ノ内徳人．日本の水産物流通と加工業．JICA プログラム地域アグリビジネス振興のための FVC 構築：水産編．独立行政法人国際協力機構四国センター．愛媛県松山市（オンデマンド）．2021 年 10 月 14 日．
23. 竹ノ内徳人・金尾聡志・西永豊光・西崎虹登．スマのトレーサビリティにおける安全性検証ー安全性に関する情報提供技術ー．令和 3 年度「スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発」中間報告会．愛媛県愛南町（南予水産研究センター西浦ステーション）．2021 年 10 月 25 日．
24. 竹ノ内徳人・金尾聡志・西永豊光・西崎虹登．新養殖魚「媛スマ」の事業化に向けた現状と課題．地域漁業学会第 63 回大会．金沢大学，Web オンライン．2021 年 11 月 7 日．
25. 西崎虹登・金尾聡志・西永豊光・竹ノ内徳人*．養殖マダイ販売実績からみる A 漁協の戦略的対応ーコロナ禍における販路開拓と輸出戦略ー．地域漁業学会第 63 回大会．金沢大学，Web オンライン．2021 年 11 月 7 日．
26. 西永豊光・金尾聡志・西崎虹登・竹ノ内徳人*．北米水産物市場の動向からみる愛媛県産養殖魚の輸出戦略ーアフターコロナを見据えた北米市場への進出ー．地域漁業学会第 63 回大会．金沢大学，Web オンライン．2021 年 11 月 7 日．

27. 竹ノ内徳人・金尾聡志・西永豊光・西崎虹登. スマのトレーサビリティにおける安全性検証－安全性に関する情報提供技術－. 令和 3 年度「スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発」年度末報告会. 愛媛県愛南町（南予水産研究センター西浦ステーション）. 2022 年 3 月 18 日.

兼任教員（水産関係の成果のみ記載）

小林真也

【学会発表・各種講演・報告など】

1. Examination of Water Temperature Accuracy Improvement Method for Forecast, Yu Agusa, Keiichi
2. 遊魚の遊泳ベクトルに基づく魚病感染発生の早期検出, 黒澤 慶太, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会第 84 回全国大会 2022 年 3 月
3. 動画像を用いた連続魚影検出における検出漏れフレームに対する補間手法の提案, 山磨 虎多郎, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会第 84 回全国大会 2022 年 3 月
4. 高いユーザビリティを持つ赤潮情報管理システムの開発, 石上 智也, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会第 84 回全国大会 2022 年 3 月
5. 多深度海水温連続観測装置におけるビットエラー訂正機能の開発, 沖原 彰, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会第 84 回全国大会 2022 年 3 月
6. 海水温情報提供システムにおける非観測点海水温補間の精度改善手法の提案, 阿草裕, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会 情報システムと社会環境研究会, 2021 年 12 月
7. 「洋上を現場とする IoT 機器・サービス実現のための電波特性試験調査」「洋上を現場とする IoT 機器・サービス実現のための電波特性試験調査」報告会

森本昭彦

【学協会誌】

1. Sukigara, C., Mino, Y., Yasuda, A., Morimoto, A., Buranapratheprat, A., Ishizaka, J. (2021): Measurement of oxygen concentrations and oxygen consumption rates using an optical oxygen sensor, and its application in hypoxia-related research in highly eutrophic coastal regions. Continental Shelf Research, 229 <https://doi.org/10.1016/j.csr.2021.104551>.
2. Morimoto, A., Mino, Y., Buranapratheprat, A., Kaneda, A., Tong-U-Dom, S., Sunthawanic, K., Yu, X., Guo, X. (2021): Hypoxia in the Upper Gulf of Thailand –hydrographic observation and modeling-. J. Oceanography, 77 (6), 859-877. <https://doi.org/10.1007/s10872-021-00616-3>.
3. Buranapratheprat, A., Morimoto, A., Phromkot, P., Mino, Y., Gunbua, V., Jintasaeranee, P. (2021): Eutrophication and hypoxia in the upper Gulf of Thailand. J. Oceanography, 77 (6), 831-841. <https://doi.org/10.1007/s10872-021-00609-2>.

【学会発表】

1. 前谷佳奈・森本昭彦・大西秀次郎・郭新宇・美山透：2021 年の底入り潮の発生状況. 豊後水道研究集会 2021 年 11 月.

5. 学会及び審議会・委員会等の活動(専任教員・2021年度)

武岡英隆

【学協会役職】

1. 日本海洋学会沿岸海洋研究会顧問
2. 瀬戸内海研究会議理事

【各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県アコヤガイ斃死対策検討会委員
2. 環境研究推進委員会安全確保部会委員 独立行政法人環境再生保全機構

松原孝博

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしよく教育普及委員
3. 環境省 化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
4. 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業開発研究ステージ評議委員
5. 愛南漁業協同組合 非常勤監事

後藤理恵

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛南町ぎょしよく教育普及進協議会委員
2. 外国人技能実習制度 Jitco 監査(愛南漁業協同組合)
3. 愛媛県立南宇和高等学校評議員
4. 水産政策審議会企画部会特別委員
5. 農業資材審議会飼料分科会飼料安全部会委員
6. 日本学術振興会特別研究員審査委員
7. 令和3年愛媛県南宇和郡愛南町総合計画審議会委員
8. 清心女子中高等学校 SSH 運営委員

高木基裕

【学協会役職(理事・委員等)】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会中国四国支部幹事
3. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
4. 日本水産増殖学会評議員
5. 水生動物編集委員

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛海区漁業調整委員会委員
2. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
3. 愛媛県レッドリスト改訂分科会員
4. 愛媛県アコヤガイへい死対策協議会専門部会委員
5. 四国西予ジオミュージアム展示内容検討委員会委員

清水園子

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 2021 年度水産動物防疫体制整備モデル事業 愛南町養殖魚類防疫体制整備協議会プログラム作成委員

若林良和

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 日本カツオ学会 顧問
2. 地域漁業学会理事
3. 漁業経済学会理事
4. 日本食育学会理事
5. 日本食育学会学会誌編集委員会委員
6. 地域漁業学会学会誌編集委員会委員（2021 年 10 月まで）

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員（2021 年 6 月まで）
2. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会委員
3. 一般財団法人四国産業・技術振興センター四国産業技術大賞選考審査会審査員
4. 公益財団法人えひめ産業振興財団理事
5. 公益財団法人えひめ地域政策研究センター評議員
6. 一般社団法人えひめベンチャー支援機構理事
7. 愛媛県人口問題総合戦略推進会議委員
8. えひめ地域活性化雇用創造協議会委員
9. 愛媛県松山圏域活性化戦略会議委員
10. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会委員
11. 愛媛県愛南町食育推進協議会委員
12. 愛媛県愛南町食育協働部会副会長
13. 愛媛県愛南町次世代水産業振興ネットワークシステム推進協議会委員
14. 愛南町地域水産物緊急販路拡大協議会委員
15. 愛媛県今治市食育推進協議会顧問
16. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会委員
17. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会委員長
18. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部顧問
19. 株式会社テレビ愛媛番組審議会委員

竹ノ内徳人

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事ならびに学会誌編集委員会委員長

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員

2. 河原学園教務委員会・委員
3. 徳島県・県有種苗生産施設有効活用実践事業プロポーザル審査委員会・委員長
4. 松山市公設水産地方卸売市場運営審議会 委員
5. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会・委員

6. 教育活動(専任教員・2021年度)

松原孝博

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：3名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：1名

（副指導）：2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：3件

- ・スマ稚魚の新規餌料開発
- ・次世代育種システムに向けたスマの人工授精技術の最適化
- ・スマ *Euthynnus affinis* の酸素消費量および給餌による変化に関する研究

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産生物環境学，社会共創学部
2. 前学期，養殖学，社会共創学部
3. 前学期，水産生物学（主担），社会共創学部
4. 前学期，海洋生産科学Ⅰ（主担），社会共創学部
5. 前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（分担），社会共創学部
6. 前学期，水圏生産学特論（分担），社会共創学部
7. 前学期，産業経済論（分担），社会共創学部
8. 後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（主担），社会共創学部
9. 前学期，プロジェクト基礎演習（主担），社会共創学部
10. 前学期，プロジェクト実践演習（主担），社会共創学部
11. 後学期，プロジェクト応用演習（主担），社会共創学部
12. 後学期，地域産業調査（分担），社会共創学部
13. 前学期集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
14. 後学期，海洋生産科学概論（主担），社会共創学部
15. 後学期，新入生セミナーB（分担），社会共創学部
16. 前学期集中，社会共創演習Ⅰ（分担），社会共創学部
17. 集中，インターンシップ実践（分担），社会共創学部
18. 集中，インターンシップ応用（分担），社会共創学部
19. 集中，次世代水産イノベーション論（主担），社会共創学部
20. 通年，卒業研究（主担），社会共創学部
21. 後学期，水圏生命科学Ⅰ（主担），大学院農学研究科
22. 前学期集中，水圏生命科学Ⅱ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
25. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
26. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

後藤理恵

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：1名，（3年生）：3名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：1名

（副指導）：2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：1件

・マダいの dead end 遺伝子発現抑制による不妊化技術開発

修士論文：1件

・スマの不妊化誘導および生殖系列キメラ作出方法に関する研究

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産生物学（分担），社会共創学部
2. 前学期，養殖環境保全学（分担），社会共創学部
3. 前学期，海洋生産科学Ⅰ（主担），社会共創学部
4. 前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（主担），社会共創学部
5. 前学期，水圏生産学特論（分担），社会共創学部
6. 後学期，水族生理学（主担），社会共創学部
7. 後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（分担），社会共創学部
8. 前学期，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
9. 前学期，プロジェクト実践演習（分担），社会共創学部
10. 後学期，プロジェクト応用演習（分担），社会共創学部
11. 後学期，地域産業調査（分担），社会共創学部
12. 前学期集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
13. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
14. 後学期，新入生セミナーⅡ（分担），社会共創学部
15. 前学期集中，社会共創演習Ⅰ（分担），社会共創学部
16. 集中，インターンシップ実践（分担），社会共創学部
17. 集中，インターンシップ応用（分担），社会共創学部
18. 集中，次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
19. 前学期集中，水圏生命科学Ⅱ（主担），大学院農学研究科
20. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
21. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
22. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

【その他】

1. R3年度 愛媛県立南宇和高等学校総合課題研究水産担当教員.

斎藤大樹

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：3名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 1 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 3 件

- ・スマ筋肉中の脂質に関する研究
- ・商業的出荷スマから得られた精子の凍結保存に関する研究
- ・スマ筋肉の色味に関する研究

修士論文 : 1 件

- ・スマ *Euthynnus affinis* の味に関する研究

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
2. 後学期, 新入生セミナー B (分担), 社会共創学部
3. 集中, 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
4. 通年, 卒業研究 (主担), 社会共創学部
5. 後学期, 水圏生命科学 I (分担), 大学院農学研究科
6. 集中, 水圏生産学演習 I (分担), 大学院農学研究科
7. 集中, 水圏生産学実験 I (分担), 大学院農学研究科
8. 集中, 水圏生産学演習 II (分担), 大学院農学研究科
9. 集中, 水圏生産学実験 II (分担), 大学院農学研究科

高木基裕

【指導学生】

農学部学生 (4 年生) : 2 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2 件

- ・飼育下におけるクルマエビ稚エビ期の脱皮および成長に関する研究
- ・胎生魚ウミタナゴの飼育下での出産

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 通年, 環境保全セミナー, 農学部
2. 通年, 水族保全学実習, 農学部
3. 通年, 卒業論文, 農学部
4. 後学期, 生物学 (分担), 農学部
5. 後学期, 環境保全学概論 (分担), 農学部
6. 後学期, 水産生物学, 農学部・社会共創学部
7. 後学期, 環境分子生物学 (分担), 農学部・社会共創学部
8. 後学期, 環境保全学実験 III (分担), 農学部
9. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 大学院農学研究科
10. 通年, 食料生産学特別演習, 大学院農学研究科
11. 通年, 食料生産学特別実験・実習, 大学院農学研究科
12. 通年, 水圏生産学演習 I, 大学院農学研究科
13. 通年, 水圏生産学実験 I, 大学院農学研究科
14. 通年, 水圏生産学演習 II, 大学院農学研究科
15. 通年, 水圏生産学実験 II, 大学院農学研究科

16. 後学期, 外書購読, 大学院農学研究科
17. 後学期, 水圏環境科学 I, 大学院農学研究科
18. 前学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
19. 前学期, 海洋生産科学 I, (分担), 社会共創学部
20. 前学期, 海洋生産科学 II, (分担), 社会共創学部

清水園子

【指導学生】

社会共創学部学生 (4 年生) : 2 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2 件

- ・ 御荘湾における有害渦鞭毛藻類の分布および動態に関する研究
- ・ マダイの血液を用いた低侵襲性魚病検査マーカーの開発

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前期 養殖環境保全学 (分担) 社会共創学部
2. 前期 産業技術調査 (分担) 社会共創学部
3. 前期 プロジェクト実践演習 (分担) 社会共創学部
4. 前期 海洋生産科学 I (分担) 社会共創学部
5. 前期 海洋生産科学 II (分担) 社会共創学部
6. 前期 海洋生産科学セミナー I (分担) 社会共創学部
7. 前期 産業イノベーションセミナー II (分担) 社会共創学部
8. 前期 水圏生産学特論 (分担) 大学院農学研究科
9. 後期 海洋生産科学概論 (分担) 社会共創学部
10. 後期 プロジェクト基礎演習 (分担) 社会共創学部
11. 後期 プロジェクト応用演習 (分担) 社会共創学部
12. 後期 産業イノベーションセミナー I (分担) 社会共創学部
13. 通年 インターンシップ実践 (分担) 社会共創学部
14. 通年 インターンシップ応用 (分担) 社会共創学部
15. 通年 社会共創演習 I (分担) 社会共創学部
16. 通年 社会共創演習 II (分担) 社会共創学部
17. 後期 海洋生産科学セミナー II (分担) 社会共創学部
18. 集中 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
19. 前期 水圏生産学特論 (分担), 大学院農学研究科
20. 後期 水圏環境科学 II, 大学院農学研究科
21. 通年 水圏生産学演習 I 大学院農学研究科
22. 通年 水圏生産学実験 I 大学院農学研究科
23. 通年 水圏生産学演習 II 大学院農学研究科
24. 通年 水圏生産学実験 II 大学院農学研究科

【他大学等での講義】

1. 松山大学 社会学応用特殊講義 愛媛学 (分担)

若林良和

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

(主指導：1名)

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産社会学，社会共創学部
2. 前学期，水産社会論，農学部
3. 後学期，水産社会学，大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
4. 後学期，水圏社会科学Ⅰ，大学院農学研究科（水圏生産学コース）
5. 後学期，水産社会論Ⅰ・Ⅱ，大学院人文社会科学研究科（環境・資源マネジメントコース）

【他大学等での講義】

1. 高知大学教育学部（社会学概論・社会学，集中）
2. 高知大学医学部（家族社会学，集中）
3. 松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部（文化人類学，通年）
4. 松山大学人文学部（社会学応用特殊講義・愛媛学(分担)，後学期）
5. 松山看護専門学校（文化人類学，後学期）

竹ノ内徳人

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

(主指導)：1名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

修士論文：1件

・養殖水産物の輸出戦略における地域漁業振興の展望－愛媛県愛南漁協の販売戦略を事例として－

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，こころと健康，共通教育
2. 前学期，専攻セミナーⅠ，農学部
3. 前学期，農学実習ⅠB，農学部
4. 前学期，基礎農業経営経済学（分担）2年生，農学部
5. 前学期，水産社会科学演習（分担），農学部
6. 前学期，海域社会経済論，農学部
7. 前学期，水産経済論，社会共創学部
8. 前学期，海洋生産科学Ⅰ
9. 前学期，海洋生産科学Ⅱ
10. 後学期，食品マーケティング論，農学部
11. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
12. 後学期，専攻セミナーⅡ，農学部
13. 前学期，食料生産経営学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
14. 前学期，食料生産経営学Ⅰ（分担），大学院農学研究科
15. 前学期，食料生産経営学演習Ⅲ（分担），大学院農学研究科
16. 前学期，食料生産経営学特別演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科

17. 前学期, 食料生産経営学Ⅲ (分担), 大学院農学研究科
18. 前学期, 海洋生産科学研究 (分担), 大学院農学研究科
19. 後学期, 海域社会論, 大学院農学研究科
20. 後学期, 水圏社会科学, 大学院農学研究科
21. 後学期, 食料生産経営学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科
22. 後学期, 食料生産経営学Ⅳ (分担), 大学院農学研究科
23. 通年, 食料生産経営学ケーススタディ (分担), 大学院農学研究科

【他大学等での講義】

- ・松山短期大学 「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」(通年)

7. 地域・社会連携活動(2021年度)

(1) シンポジウム, 講演会, 展示等の開催(主催, 共催, 後援等)

1. 赤潮勉強会, 愛南漁協, 久良漁協, 愛南町水産課 6月
2. 愛媛大学南予水産研究センター・愛南町水産課連絡会 10月12日
3. 御荘湾自然観察会講師(高木) 11月4日
4. 第10回愛南町食育推進大会(後援) 12月22日
5. マハタ・キジハタのレシピ開発(竹ノ内) (東雲短大, 愛媛県水産課)
東雲短大調理実習室 学生参加(10名) 1月5日
6. 愛南町水産フォーラム(エコシステム成果報告会)開催2月5日 YouTube限定配信
(2月19日まで)視聴回数約600
7. 南水研卒論・修論公开发表会, 試験魚介類の供養祭および愛南町からの卒業・修了記念品贈呈
2月24日



魚介類供養祭(卒論・修論発表会後)



愛南町より記念品の贈呈(同左)

(2) 地域特別研究員との共同研究

研究題目

新規養殖品種の開発
スマ養殖
水産物養殖技術の開発
魚類養殖現場で発生する病気について
魚類養殖現場で発生する病気について
リアルタイムPCRによつアコヤガイビルナウィルス
感染状況の調査
四国南西海域における植物プランクトン相の把握
アコヤガイ種苗生産
優良アコヤガイ作出に係る技術開発
優良アコヤガイ作出に係る技術開発
「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究
漁村における地域文化の研究
学校教育の視点から考える「ぎょしょく教育」と
地域理解教育の関係性
町内水産物の販売促進およびブランド化の研究

地域特別研究員

清水 陽介
田中 俊也
大西 光
吉原 勇作
垣本 一真

賀屋 啓太
日野出賢二郎
廣瀬 琢磨
濱田 茂樹
山本 次郎
高橋 裕司
藤本 吉信

猪野啓士郎
濱 哲也

受入教員

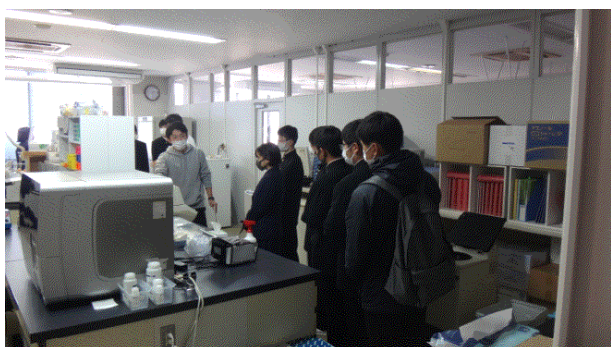
松原 孝博
松原 孝博
松原 孝博
清水 園子
清水 園子

清水 園子
清水 園子
高木 基裕
高木 基裕
高木 基裕
若林 良和
若林 良和

若林 良和
竹ノ内徳人

(3) 地域連携教育

1. 愛南町ぎょしょく教育授業（小学生対象）
 - ・ 6月～11月（松原、後藤、清水）「ちりめんモンスターをさがせ」講師を交替で担当
社会共創学部3回生、4回生、農学研究科修士学生も指導補助として交替で参加
（平城小学校、城辺小学校、船越小学校、福浦小学校、一本松小学校、柏小学校）
 - ・ 6月22日（高木）
「無脊椎動物（イカ、ウニなど）の観察と解剖」講師（久良小学校）
2. 愛南町職場体験授業（ジョブチャレンジ）（中学生対象）
 - ・ 9月27日～10月1日（武岡・松原・高木・後藤・清水）
城辺中学校の生徒3名の職場体験を受け入れ、交替で担当
 - ・ 10月25日～10月29日（武岡・松原・高木・後藤・清水）
御荘中学校の生徒3名の職場体験を受け入れ、交替で担当
3. 南宇和高校 総合的な探究の時間「地域づくり探究Ⅰ・Ⅱ」
 - ・ 6月11日（松原、後藤）南宇和高校にて 水産における課題の共有
 - ・ 6月25日（松原、後藤）南宇和高校にて 研究課題の検討
 - ・ 7月16日（松原、清水） マイクロプラスチック課題班（生徒4名）は尻貝にて現地調査、
赤潮課題班（生徒2名）は船越ステーションにて座学
 - ・ 7月30日、8月6日（清水、竹内） 船越ステーションにて調査（赤潮課題班）
 - ・ 8月5日（後藤、松原） 西浦ステーション見学およびマイクロプラスチックに関する討論
 - ・ 9月10日、10月29日、11月5日（後藤、松原） マイクロプラスチックに関する実地調査
 - ・ 9月10日、17日、10月1日、8日、15日、22日、29日（清水、竹内） 赤潮調査と座学
 - ・ 10月8日（後藤、松原、清水） 中間報告会
 - ・ 11月5日、12日、19日（清水、竹内） 赤潮調査
 - ・ 1月14日（清水） 赤潮・魚病研究のまとめ
 - ・ 1月28日（松原・清水） 報告会出席
4. 第2回高校生両生類サミット Web 発表会（SSH アドバイザー）9月20日（後藤）
5. 集まれ！理系女子 第13回女子生徒による科学研究発表 Web 交流会四国大会
10月16日（後藤、斎藤、竹内）
6. 宇和島南高校グローバルイノベーション事業（UGI）課題研究指導
10月21日、1月20日、2月17日（高木）
7. 松山南高 SSH 生徒の南水研見学（生徒35名、教員2名）12月14日



松山南高 SSH 生徒の見学（船越ステーション）



松山南高 SSH 生徒の見学（西浦ステーション）



水温計の清掃作業体験
(御荘中学生ジョブチャレンジ)



ぎょしょく教育授業（久良小学校）

(4) 一般向け講演等

竹ノ内徳人

1. 竹ノ内徳人：漁業・養殖・陸上養殖の現状・課題・展望，令和3年度情報機構セミナー，東京都（Web オンライン），5月（2021）
2. 竹ノ内徳人：水産物の消費動向とマーケティング，令和3年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座，愛媛県（Web オンライン），5月（2021）
3. 竹ノ内徳人：漁業・養殖・陸上養殖の現状・課題・展望，令和2年度情報機構セミナー，東京都（Web オンライン），9月（2020）
4. 竹ノ内徳人：水産物のフードシステムと食育，令和3年度松山市食育推進研修会，愛媛県松山市，7月（2021）

(5) 一般向け雑誌記事等

若林良和

1. 若林良和：地域から信頼され愛される愛媛大学を目指して 地域・社会とのインターフェース機能を強化し，社会連携を実質化．月刊愛媛ジャーナル 35（2）・No.410：56－57（2021.07）
2. 若林良和：コラム第94回 社会・地域と大学のインターフェースを果たして，新たな共創を Vol.1 ～産学連携と地域連携の更なる実質化を目指して～．松山商工会議所所報 No.750：14（2021.05）
3. 若林良和：コラム第95回 社会・地域と大学のインターフェースを果たして，新たな共創を Vol.2 ～地域水産物の価値創生による消費拡大と担い手育成～．松山商工会議所所報 No.751：14．（2021.06）
4. 若林良和：久万高原キャンパスと森林・林業リカレント教育のさらなる発展を祈念して．愛媛大学久万高原キャンパス設立10周年記念事業実行委員会編 愛媛大学農学部「森の国」森林・林業リカレント教育10周年 久万高原キャンパス設立10周年記念誌．愛媛大学大学院農学研究科・森林環境管理学サブコース：11（2021.10）

(6) その他

1. 四国水族館（香川）へスマを提供（後藤）8月26日
2. カキ殻散布による御荘湾底質改善事業調査（高木）11月29日

8. 新聞記事・テレビ出演等(2021年度)

武岡英隆

1. 読売新聞（全国版），2022 年 1 月 28 日，地域経済@愛媛，豊かな海 稼げる漁業へ，漁師・食品会社・大学タッグ，販路世界へ広がる可能性

高木基裕

1. 愛媛朝日テレビ，番組「なるちか」，（2021 年 8 月 14 日）「タツノオトシゴ」情報提供
2. NHK，番組「さわやか自然百景」，（2021 年 10 月 23 日）「愛媛・宇和海・夏」生物種同定
3. ヘルシスト，雑誌「新食材紀行」，（2022 年 1 月 10 日）「磯焼け」対策にひと役 野菜で養殖したウニのお味」インタビュー

若林良和

1. 研究者・学芸員 20 人が論考 市博物館紀要第 26 号発刊．宮古毎日新聞，2021 年 3 月 31 日．
2. カツオ学会が 10 年の歩み総括「今後は国際的活動」 遠隔でフォーラム．高知新聞，2022 年 1 月 29 日．

竹ノ内徳人

1. 魚魚っとガール 斬新料理，読売新聞（2022/1/26）
2. 地味な高級魚 華麗に売り出せ，朝日新聞（2022/2/2）

小林真也

1. 2021 年 6 月 リックテレコム テレコミュニケーション（2021 年 7 月号）「大学発ローカル 5G 最新研究」

その他

1. 愛媛新聞（2021 年 4 月 2 日）「地域おこし成果報告ー農水販促活動に力」
2. 愛媛新聞（2021 年 4 月 14 日）「天然記念物区域一部指定を解除ー宇和海で県教委」
3. 愛媛新聞（2020 年 5 月 12 日）「水産や農林に親しむー愛南地域おこし隊 2 人着任」

9. センター視察・来訪者(2021年度)

		人
2021 年 4 月 2 日	愛媛大学社会連携推進機構	3
2021 年 4 月 8 日	愛媛県農林水産研究所水産研究センター魚類検査室	2
2021 年 6 月 15 日	愛媛大学社会連携推進機構	3
2021 年 6 月 23 日	愛媛大学リカレント教育支援センター	2
2021 年 6 月 29 日	愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当）	2
2021 年 7 月 2 日	愛媛大学医学部生（5 回生）	3
2021 年 7 月 8 日	愛媛大学大学院理工学研究科	1
2021 年 7 月 15 日	愛媛大学社会連携推進機構	3
2021 年 8 月 3 日	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	2
2021 年 9 月 27 日	愛南町立城辺中学校（職場体験）	2
～ 10 月 1 日		
2021 年 10 月 25 日	愛南町立御荘中学校（職場体験）	3
～ 10 月 29 日		
2021 年 10 月 26 日	愛媛大学社会連携支援部	5
2021 年 11 月 4 日	愛媛大学	6
2021 年 11 月 4 日	愛媛県衛生環境研究所生物多様性センター	12
2021 年 11 月 5 日	愛媛県 IT 推進協会	18
2021 年 11 月 19 日	文部科学省	9
2021 年 11 月 21 日	大阪大学	3
2021 年 12 月 14 日	愛媛県立松山南高等学校	37
2021 年 12 月 22 日	ヤンマー資源循環支援機構	1
2022 年 1 月 19 日	大洲市議会	1
2022 年 2 月 24 日	CATV	1
2022 年 3 月 30 日	愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当）	1

（総訪問者数 120 人）

愛媛大学南予水産研究センター規則

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 152 号

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 30 条第 2 項の規定に基づき、愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、生命科学、環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し、先端科学による漁場調査、水産養殖技術開発、水産業振興等について研究及び教育することにより、地域社会からの水産学への要望に応え、地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第 3 条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 生命科学研究部門
- (2) 環境科学研究部門
- (3) 社会科学研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、愛媛大学農学部にセンター分室を置くことができる。

(組 織)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第 5 条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第 6 条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第 7 条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 8 条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センタ

一長の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第9条 専任教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第10条 兼任教員は、本学の専任の教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長と協議の上、センター長が学長に推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。

3 専任教員は、センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（顧問）

第12条 センターに、顧問を置くことができる。

2 顧問は、センター長の推薦に基づき、社会連携推進機構長が委嘱する。

3 顧問の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

（客員教授等）

第13条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

（研究員）

第14条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

（客員研究員）

第15条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（地域特別研究員）

第16条 センターに、地域特別研究員を置くことができる。

2 地域特別研究員に関し必要な事項は、別に定める。

（地域連携推進室）

第17条 センターに、地域連携推進室を置く。

2 地域連携推進室に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第18条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。

（雑則）

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 25 年 7 月 25 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 25 年 9 月 11 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 26 年 6 月 11 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 153 号

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、愛媛大学南予水産研究センター規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組 織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第 6 号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第 4 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議 事)

第 5 条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 7 条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事 務)

第 8 条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑 則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定め

る。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

運 営 委 員 名 簿

番号	区 分	所 属 部 局	職 名	氏 名
1	1 号委員	南予水産研究センター	センター長	武 岡 英 隆
2	2 号委員	南予水産研究センター	副センター長	松 原 孝 博
3	3 号委員	南予水産研究センター	教授	高 木 基 裕
4	3 号委員	南予水産研究センター	准教授	竹ノ内 徳 人
5	3 号委員	南予水産研究センター	准教授	後 藤 理 恵
6	3 号委員	南予水産研究センター	准教授	清 水 園 子
7	3 号委員	南予水産研究センター	准教授	斎 藤 大 樹
8	4 号委員	社会連携推進機構	機構長	若 林 良 和
9	4 号委員	社会共創学部	教授	高 橋 学
10	4 号委員	大学院理工学研究科	教授	小 林 真 也
11	4 号委員	大学院医学系研究科	教授	今 村 健 志
12	4 号委員	大学院農学研究科	教授	菅 原 卓 也
13	4 号委員	大学院農学研究科	教授	松 枝 直 人
14	4 号委員	先端研究・学術推進機構 (沿岸環境科学研究センター)	教授	森 本 昭 彦
15	5 号委員	社会連携支援部	部長	若 林 良 和

(2022 年 3 月 31 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター参与会要項

(設置)

第1条 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に，センターの事業及び運営に関して助言等を得るため，愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

(組織)

第2条 参与会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 社会連携推進機構長
- (2) 大学院農学研究科長
- (3) 社会共創学部長
- (4) 南予水産研究センター顧問
- (5) 南予水産研究センター長及び副センター長
- (6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者 若干人
- (7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

2 前項第7号の委員の任期は，2年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない。

(任務)

第3条 参与会は，センターの事業及び運営に関して，次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 地域行政，漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援
- (2) センターにおける研究，教育等への助言・支援
- (3) その他センターの事業及び運営に関する事項

(会議)

第4条 参与会に，座長を置き，社会連携推進機構長をもって充てる。

2 座長は，必要に応じて参与会を招集する。

3 座長に事故があるときは，座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

4 座長は，議題に応じ，関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

(事務)

第5条 参与会に関する事務は，社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか，参与会の運営に関し必要な事項は，社会連携推進機構長が別に定める。

附 則

この要項は，平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は，平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は，平成26年1月27日から施行する。

附 則

この要項は，平成27年10月29日から施行する。

附 則

この要項は，平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛媛大学	若 林 良 和	社会連携推進機構長
	山 内 聡	大学院農学研究科長
	徐 祝 旗	社会共創学部長
	田 辺 信 介	南予水産研究センター顧問(沿岸環境科学研究センター 特別荣誉教授)
	武 岡 英 隆	南予水産研究センター長
	松 原 孝 博	南予水産研究センター副センター長
	高 木 基 裕	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	齋 藤 大 樹	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	高 橋 学	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	小 林 真 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	今 村 健 志	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	菅 原 卓 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	松 枝 直 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	森 本 昭 彦	南予水産研究センター運営委員会委員 教授(兼任)
	若 林 良 和	南予水産研究センター運営委員会委員 部長
学外有識者	岡 原 文 彰	宇和島市長
	清 水 雅 文	愛南町長
	桧 垣 俊 司	愛媛県農林水産研究所水産研究センター長
	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合 代表理事組合長
	立 花 弘 樹	愛南漁業協同組合 代表理事組合長
	竹 田 英 則	久良漁業協同組合 代表理事組合長
	原 田 達 也	愛南町議会 議長
	宇 佐 和 人	愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	浅 野 豊	愛南漁業協同組合 真珠貝養殖協議会長
	濱 田 克 人	久良漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	松 下 定 一	愛媛県漁業協同組合吉田支所 運営委員長
	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合宇和島支所 支所運営委員長
	松 本 嘉 晃	愛媛県認定漁業士協同組合 理事長

(2022 年 3 月 31 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受入手続)

第2条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは、センターが別に定める申込書に、派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え、愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

(受入承認)

第3条 センター長は、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、地域特別研究員の受入れを決定し、派遣機関の長へ通知するものとする。

(研究方法)

第4条 地域特別研究員は、センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で、センターの研究活動に従事する。

2 地域特別研究員の研究場所は、センター長が確保するものとする。

(研究期間)

第5条 地域特別研究員の研究期間は、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、センター長が決定する。

(報酬等)

第6条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は、本学からは支給しない。

2 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、経費の額を決定する。

(研究料)

第7条 地域特別研究員に係る研究料は、徴収しない。

(研究証明書の交付)

第8条 地域特別研究員が、その研究事項について証明を願い出たときは、センター長は研究証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第9条 地域特別研究員は、研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第10条 地域特別研究員は、この要項に定めるもののほか、センター長の指示に従わなければならない。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、地域特別研究員に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第17条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域からのセンターへの要請に関すること。
- (2) センターによる地域連携活動の企画、実施に関すること。
- (3) その他、センターの地域連携活動に関すること。

(組織)

第3条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員
 - ア センターの専任教員
 - イ 地域のステークホルダー 若干人

2 室長は、センター長が指名する専任教員をもって充てる。

3 第1項第2号イの室員は、センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

(任期)

4 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 室長は、推進室に関する業務を掌理する。

2 室員は、推進室の業務を処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成20年4月1日制定）は廃止する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛媛大学	高 木 基 裕	南予水産研究センター 教授 (地域連携推進室長)
	松 原 孝 博	南予水産研究センター 教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター 准教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター 准教授
	齋 藤 大 樹	南予水産研究センター 准教授
学外有識者	岡 田 孝 洋	愛南漁業協同組合 販売促進部長
	山 岡 惣一郎	久良漁業協同組合 職員
	和 田 敬 行	愛媛県立宇和島南中等教育学校 教諭
	鈴 木 康 夫	愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭
	高 石 貞 彦	愛媛県立南宇和高等学校 教頭
	大 森 安 洋	愛南町商工観光課 課長補佐
	清 水 貴 光	愛南町水産課 課長補佐

(2022 年 8 月 1 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

委員長	松原 孝博	南予水産研究センター・センター長
副委員長	高木 基裕	南予水産研究センター・副センター長
	西原 良顕	社会連携支援部社会連携課 TL

愛媛大学南予水産研究センター年報 第 14 号 (2021 年度版)

発 行 : 2022 年 11 月

発行者 : 愛媛大学南予水産研究センター 船越ステーション

〒 798-4292 愛媛県南宇和郡愛南町船越 1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター 西浦ステーション

〒 798-4206 愛媛県南宇和郡愛南町内泊 25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター 松山ステーション (社会連携推進機構)

〒 790-8577 愛媛県松山市文京町 3

TEL 089-927-8145 FAX 089 - 927-8820

URL <http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/>

表紙写真

宇和島市下波沖～日振島近海 (遠景は九州) (撮影者 : 武岡英隆)